

(お知らせ)

旧陸軍習志野学校跡地内における
老朽化したあか筒らしきものの発見について

平成21年10月23日(金)
環境省総合環境政策局環境保健部
環境安全課環境リスク評価室
代 表 03-3581-3351
室 長 塚本 直也(内線6340)
室長補佐 筒井 誠二(内線6341)
環境専門調査員 土弘 道夫(内線6334)

千葉県習志野市の旧陸軍習志野学校跡地内において、環境省が実施していた環境(埋設物掘削確認)調査において、老朽化したあか筒らしきものが発見されましたので、お知らせいたします。

環境省が、千葉県習志野市泉町の旧陸軍習志野学校跡地内において、地権者からの要請に基づき実施していた環境(埋設物掘削確認)調査において、老朽化した、旧軍の有毒発煙筒であるあか筒らしきものが61個発見されましたので、お知らせいたします。

発見されたものは、直径約11cm、長さ約21cm程度の円筒形で、現在、密封容器に入れて安全に保管しており、今後、適切に処分を行う予定です。

あか筒は、煙にくしゃみ剤(あか剤)をのせて散布する旧軍の有毒発煙筒ですが、爆発をするようなものではありません。また、当該現場からは、多量の砲弾片などの金属も併せて発見・回収されました。

今回発見されたあか筒らしきものは、老朽化しその機能は失われていると考えられますが、内容物のくしゃみ剤(あか剤)にはヒ素が含まれていることから、念のため、今後環境省で、発見された箇所周辺の土壌などについて、調査を行う予定です。

(写真) 老朽化したあか筒らしきもの



(別添資料)

旧軍のあか筒について

あか筒は、筒状の容器にあか剤（くしゃみ剤：ジフェニルシアノアルシン）と加熱剤等が充填され、点火薬に着火するとあか剤が加熱され、これが微粒子となって煙状に拡散するという構造を有する有毒発煙筒である。

なお、あか筒に充填されたあか剤は常温では固体であり、熱を加えない限り微粒子となって拡散することはない。

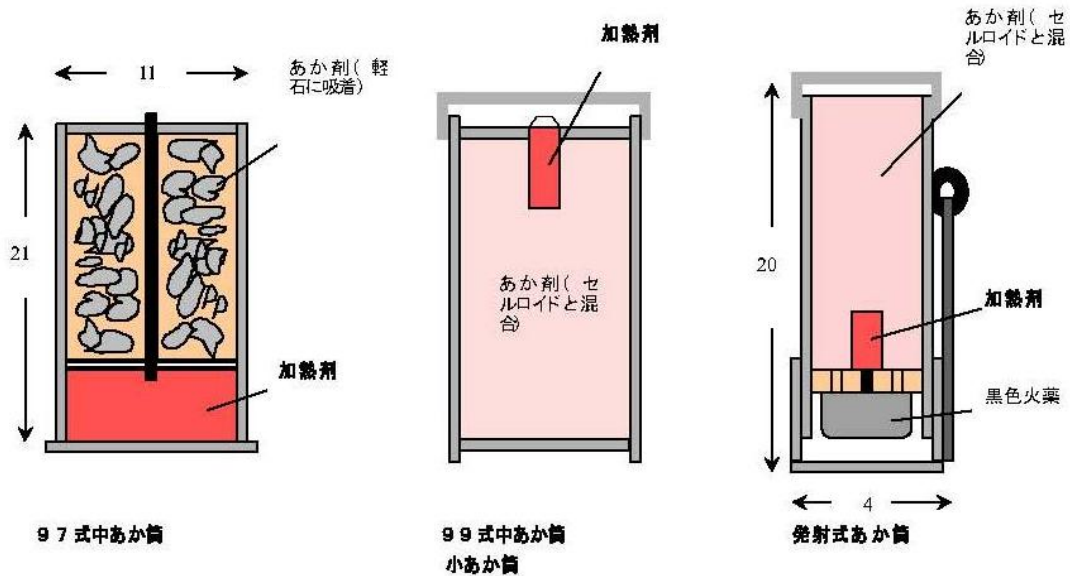


図1 各種あか筒の構造

(出典：日本学術会議「遺棄化学兵器の安全な廃棄技術に向けて」平成 13 年 7 月 23 日)

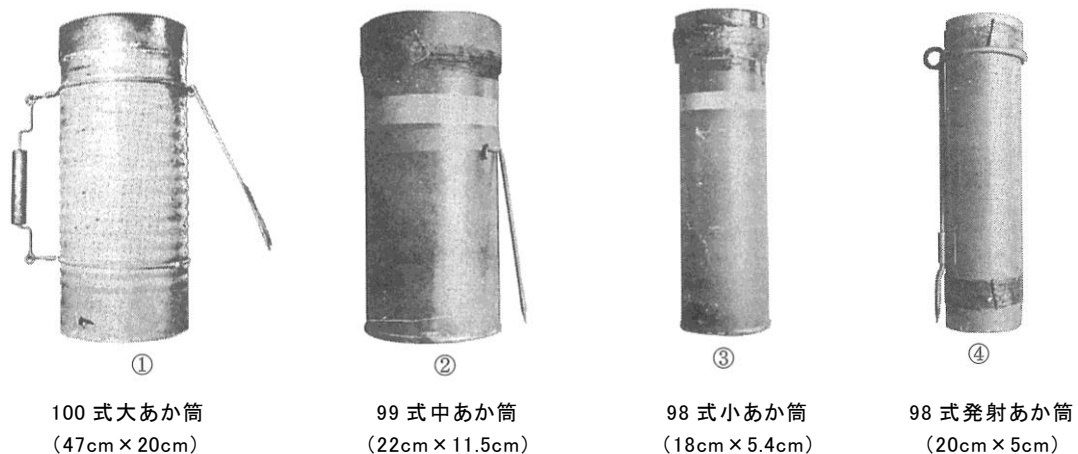


図2 各種あか筒の写真(米軍撮影)

(出典：吉見義明『毒ガス戦と日本軍』岩波書店、平成 16 年刊)